

陰翳礼讃 清川泰次と日本美

青年が写した昭和の光と影

2006年12月2日 土 — 2007年3月25日 日



すべて1940年頃 撮影:清川泰次

これは、一人の青年が、白と黒、光明と陰翳のみで織り成した昭和の風景の展覧会です。

清川泰次(1919—2000)は、17歳の時に慶應義塾大学予科に進学、同大写真部に所属します。当時まだ高価だったカメラですが、この青年は何の気負いもなく、自らの日常をモノクローム・フィルムに遺してきました。白と黒だけでこの世界を焼き付ける術に直ぐに通じていった清川は、次第に“影”や“光”といった写真の根源的な要素へ、その関心を向けていきます。自らの影、事物の陰、屋内を覆う闇。木立から零れる光、しかしそれ以上に、地面にありありと描かれた陰影。ここでは、世の中が見たままにはなく、より研ぎ澄まされたものとして呈示されています。清川は、その初々しい純真たる好奇の眼差しで、こうした、見えているはずなのに、見えていないもの、見えないはずなのに、見えるものを軽やかに留めていったのです。

白黒写真は、天然色のそれには決してない凛々しさと力強さを備えています。この世の全てを単調のみで描き出すこの視覚的な変容は、取るに足らない日常すら研ぎ澄まし、事物の関係性を瞭然と浮かび上がらせ、その被写体は我々の目へ切迫してくるのです。世界がまだこの二元論でしか留められなかった時代には、今日では失われてしまった、純然たる美が確かに存在していたのでしょう。そしてそれは、この青年の写真にも、確かに収められていました。

このたび、ご遺族のご協力により、清川泰次が十代後半に撮影したモノクローム・フィルムが発見されました。1,000点以上にも及ぶこの膨大な白黒写真の数々は、その当時を振り返るに格好の資料である一方で、青年ならではのウットに溢れ、何より清川の美意識やその視線の在り方を窺わせ、これらはその後の抽象画に通じていくものと言えるでしょう。そこで今回は、その中から特に“光”と“影”をテーマに選出した写真約50点を展示致します。同時に、1970年代に清川が描いた油彩画も展示し、それらに通ずる感性を考察します。これら両者には、清川個人のみならず、この国に特有の美意識が相通じているはずで、底知れぬ闇と煌めく光の狭間に立ち現れる日本美を、こうした清川泰次の視線を通してご堪能頂ければ幸いです。

■ 清川泰次記念ギャラリー

平成18年度 第3期展

陰翳礼讃

清川泰次と日本美 青年が写した昭和の光と影

2006年12月2日(土) - 2007年3月25日(日)

●お問い合わせ

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202
http://www.kiyokawataiji-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

小田急線〔成城学園前〕駅南口 徒歩3分



■ 向井潤吉アトリエ館

平成18年度 第3期展

向井潤吉の歩いた時代

大正・昭和に残した画家の足跡

2006年12月2日(土) - 2007年3月25日(日)

●お問い合わせ

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581
http://www.mukaijunkiichi-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

東急田園都市線(駒沢大学)駅 西口 徒歩10分 / 東急世田谷線(松陰神社前)駅 徒歩17分
東急バス(渋05)渋谷~弦巻営業所(駒沢中学校) 徒歩3分 / 東急バス(等11)祖師谷折返所~等々力(駒沢三丁目) 徒歩3分
東急バス(渋11)渋谷~田園調布(駒沢大学駅前) 徒歩10分 / 東急バス(渋12)渋谷~二子玉川(駒沢大学駅前) 徒歩10分

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館



■ 宮本三郎記念美術館

平成18年度 第3期展

宮本三郎と風景

2006年12月2日(土) - 2007年3月25日(日)

●お問い合わせ

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836
http://www.miyamotosaburo-annex.jp

●最寄交通機関のご案内

東急目黒線(奥沢)駅 徒歩8分 / 東急大井町線(九品仏)駅 徒歩8分
東急大井町線・東横線(自由が丘)駅 徒歩7分



■ 各館共通

- 開館時間 午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(ただし1月8日、2月12日は開館、1月9日、2月13日は休館)、年末・年始(12月29日~2007年1月3日)
- 観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)
※()内は20名以上の団体料金 小・中学生は土・日・祝日無料

世田谷美術館

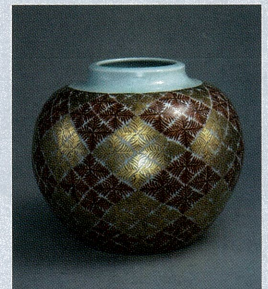


▲ダニ・カラヴァン 室生山上公園芸術の森 1999~2006年
写真提供:空間造形コンサルタント

企画展 ▶▶▶

- 開催中~12月24日(日)
空間に生きる - 日本のパブリックアート展
戦後公共空間に置かれた野外彫刻や彫刻庭園など、日本のパブリックアートの歴史を、写真パネル、ビデオ、模型、図面など豊富な資料で検証していきます。
- 2007年1月4日(木)~3月11日(日)
生誕120年 富本憲吉展
近代陶芸の巨匠・富本憲吉(1886~1963)が、「大和時代」の楽焼・土焼、祖師谷に窯を築いた「東京時代」から色絵・金銀彩の「京都時代」までその全貌に迫る大回顧展です。

20
anniversary
SETAGAYA
ART MUSEUM



▲富本憲吉(色絵金彩羊歯模様大鉢壺)
1960年 京都国立近代美術館蔵

収蔵品展 ▶▶▶

- 2007年1月4日(木)~4月8日(日) 第3期収蔵品展 田園交響楽
全ての生命の源でありながら、今となっては限られた場所で見ることが出来ない「田園」。その景色を直接カメラに収め、あるいはそれを絵に残した作家達、師岡宏次、山口薫、熊谷守一らの作品を紹介いたします。

●お問い合わせ

〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代)
http://www.setagayaartmuseum.or.jp

●最寄交通機関のご案内

東急田園都市線「用賀」駅徒歩17分、または美術館バス「美術館」徒歩3分
小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅行バス「砧町」徒歩10分

●開館時間

午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)

●休館日

毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日)

●観覧料

年末・年始(12月29日~2007年1月3日)
収蔵品展は分館と同じ(企画展は内容により異なる)